

第 3 章 調査結果

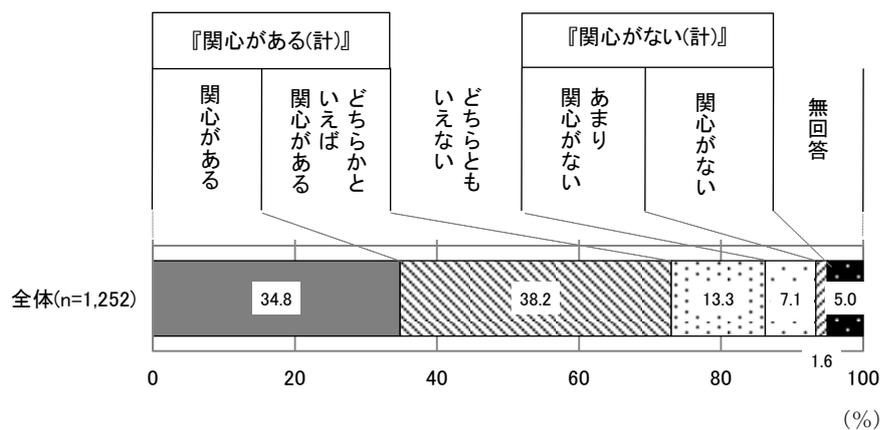
1 消費者問題への関心度と意識について

(1) 消費者問題に対する関心度

◆ 『関心がある(計)』は73.0%、『関心がない(計)』は8.7%

問1 消費者問題について関心がありますか。(○は1つ)

図1-1 消費者問題に対する関心度



消費者問題に対する関心度について聞いたところ、「どちらかといえば関心がある」(38.2%)が最も多くなっている。「関心がある」(34.8%)と「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心がある(計)』は73.0%となっている。一方、「あまり関心がない」(7.1%)と、「関心がない」(1.6%)を合わせた『関心がない(計)』は8.7%となっている。(図1-1)

【性別】

『関心がある(計)』は、男性が73.1%、女性が73.4%で、大きな差はみられない。「関心がある」という回答は、女性より男性の方が4.6ポイント高く、「どちらかといえば関心がある」は女性が男性より4.9ポイント高くなっている。(図1-2)

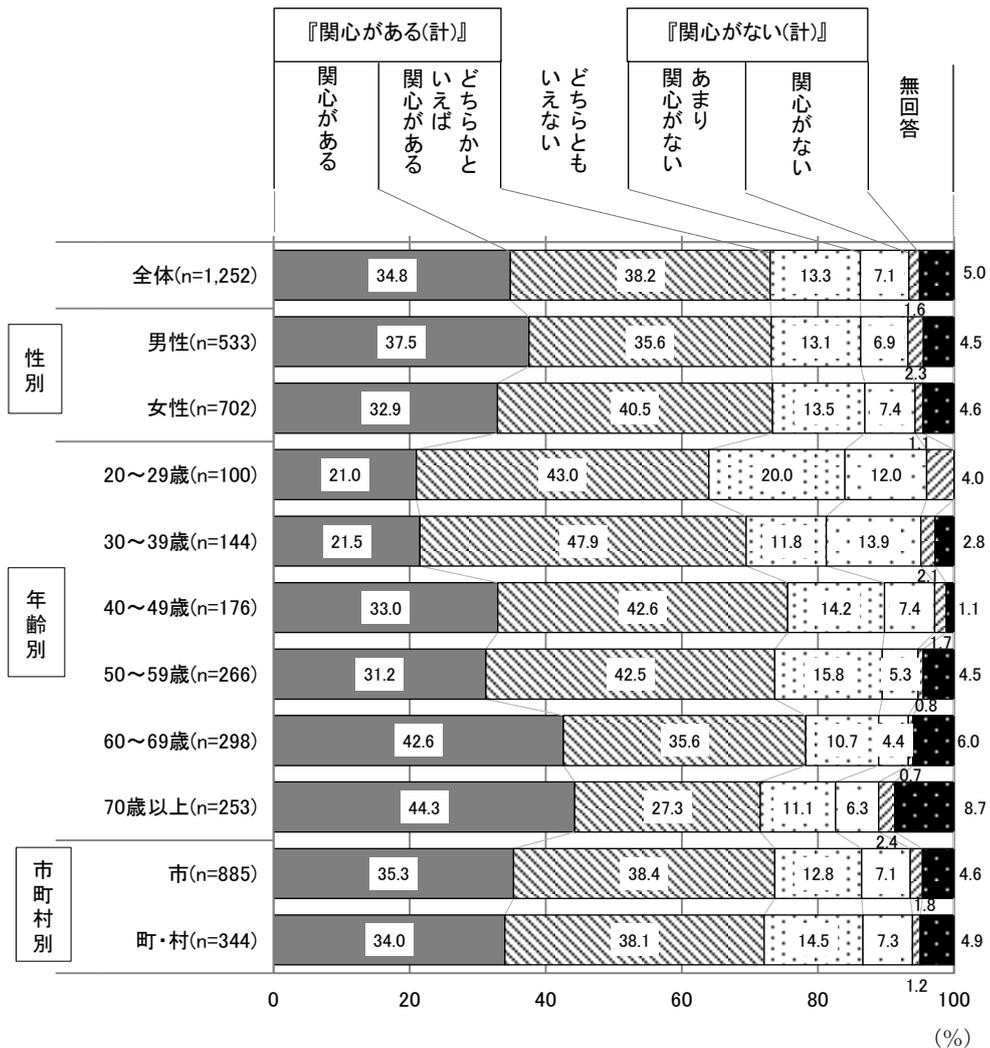
【年齢別】

『関心がある(計)』という回答は、60～69歳で最も多く、約8割(78.2%)となっている。一方で、『関心がない(計)』という回答は、20～29歳で最も多く、約2割(16.0%)となっている。(図1-2)

【市町村別】

『関心がある(計)』という回答は、市が73.7%、町・村が72.1%となっており、大きな差はなかった。(図1-2)

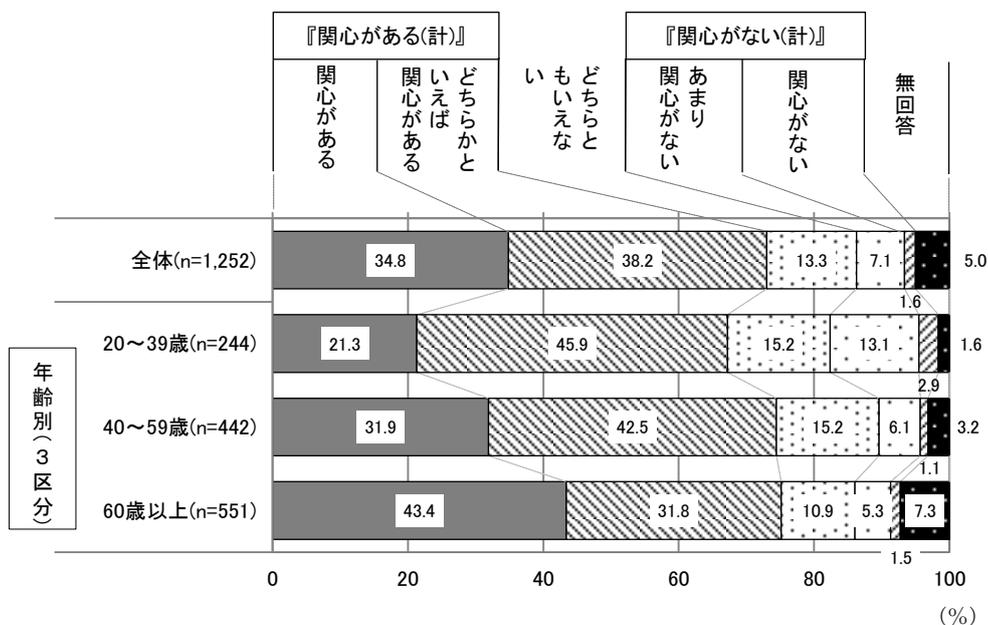
図1-2 消費者問題に対する関心度 性別・年齢別・市町村別



【年齢別（3区分）】

『関心がある（計）』は、60歳以上（75.2%）で最も多くなっている。年齢が上がるにつれて消費者問題に対する関心が高くなっているといえる。（図1-3）

図1-3 消費者問題に対する関心度 年齢別（3区分）



【訪問や電話での勧誘の有無別】

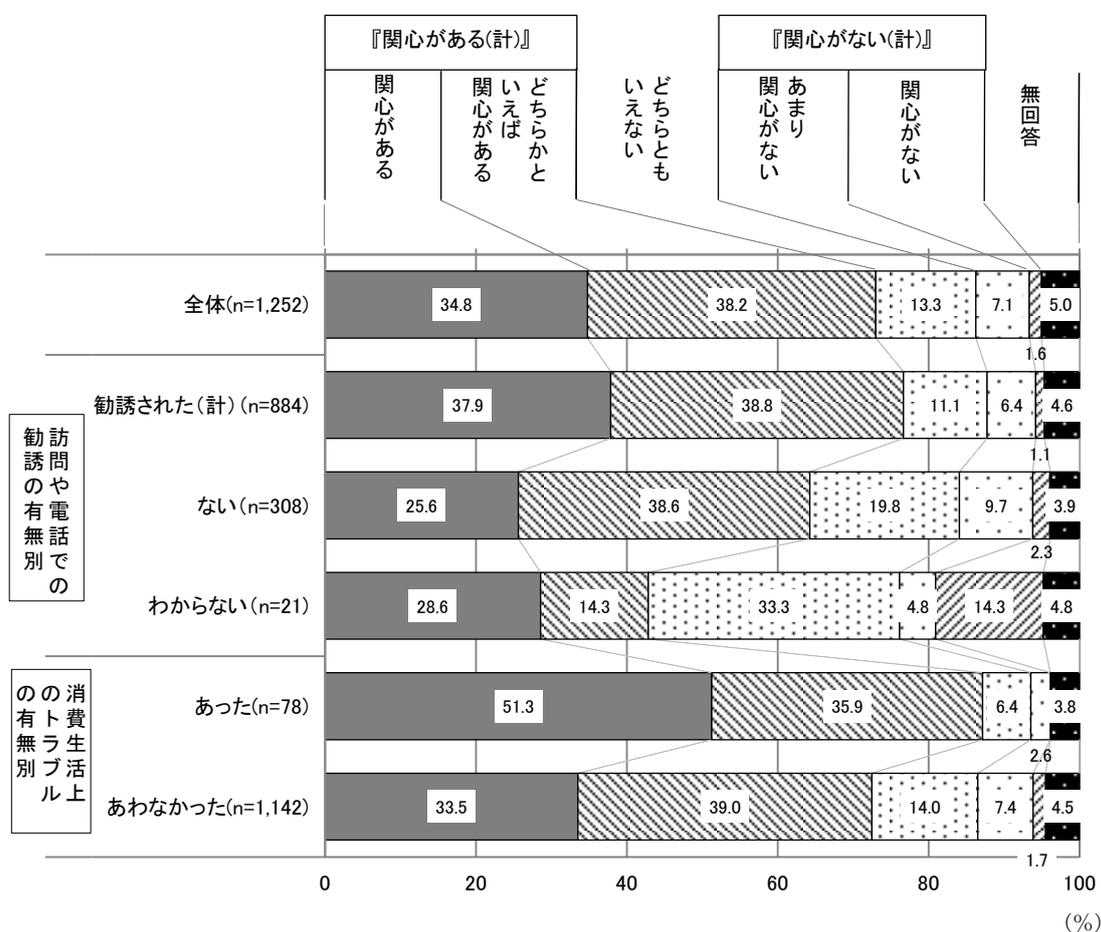
『関心がある(計)』は、“勧誘された(計)”で最も多く、約8割(76.7%)となっている。勧誘の経験が“ない”(64.2%)方よりも、12.5ポイント高くとなっている。

(図1-4)

【消費生活上のトラブルの有無別】

『関心がある(計)』は、消費生活上のトラブルの経験が“あった”(87.2%)で約9割となっている。“あわなかった”(72.5%)と回答している方より、14.7ポイント高くとなっている。(図1-4)

図1-4 消費者問題に対する関心度 訪問や電話での勧誘の有無別・消費生活上のトラブルの有無別

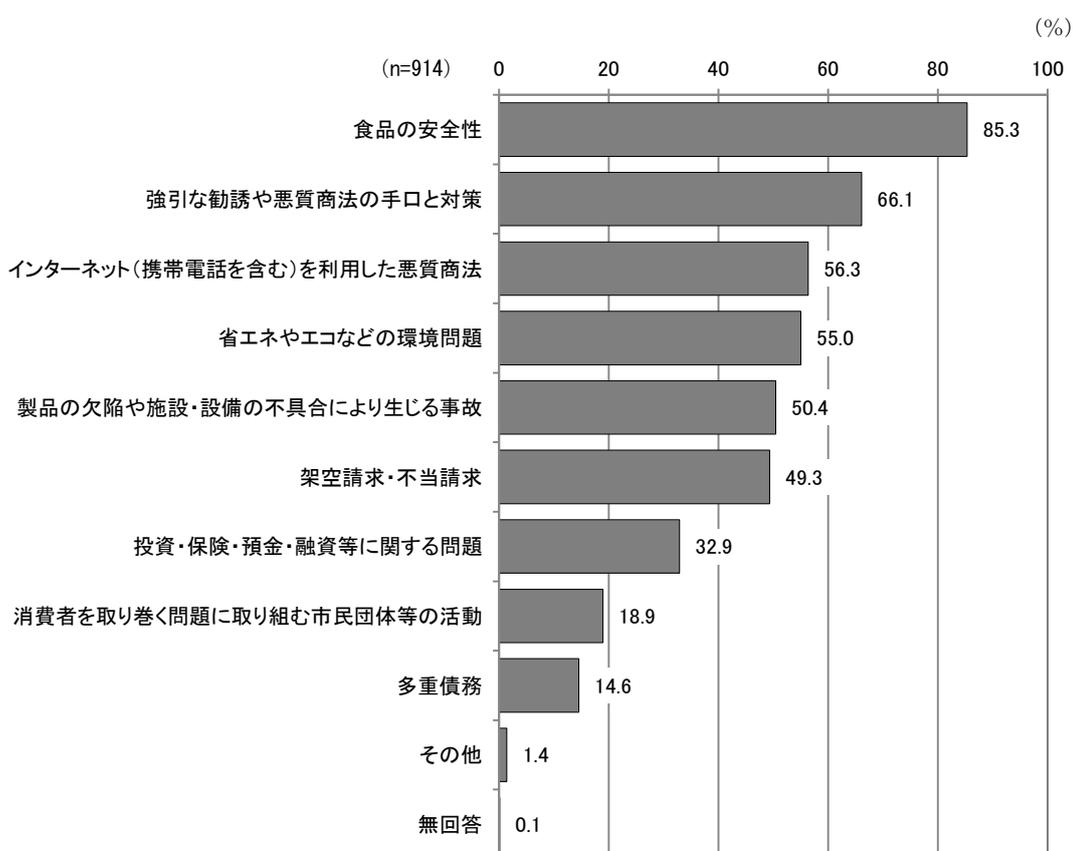


(2) 関心のある消費者問題

◆「食品の安全性」が85.3%

(問1で、「①関心がある」、「②どちらかといえば関心がある」と回答した方のみ)
問2 次のうち関心があるものに○をしてください。(○はいくつでも)

図1-5 関心のある消費者問題



問1で、「関心がある」または「どちらかといえば関心がある」という回答した方に、関心がある消費者問題について聞いたところ、「食品の安全性」(85.3%)が最も多くなっている。次に、「強引な勧誘や悪質商法の手口と対策」(66.1%)、「インターネット(携帯電話を含む)を利用した悪質商法」(56.3%)と続いている。(図1-5)

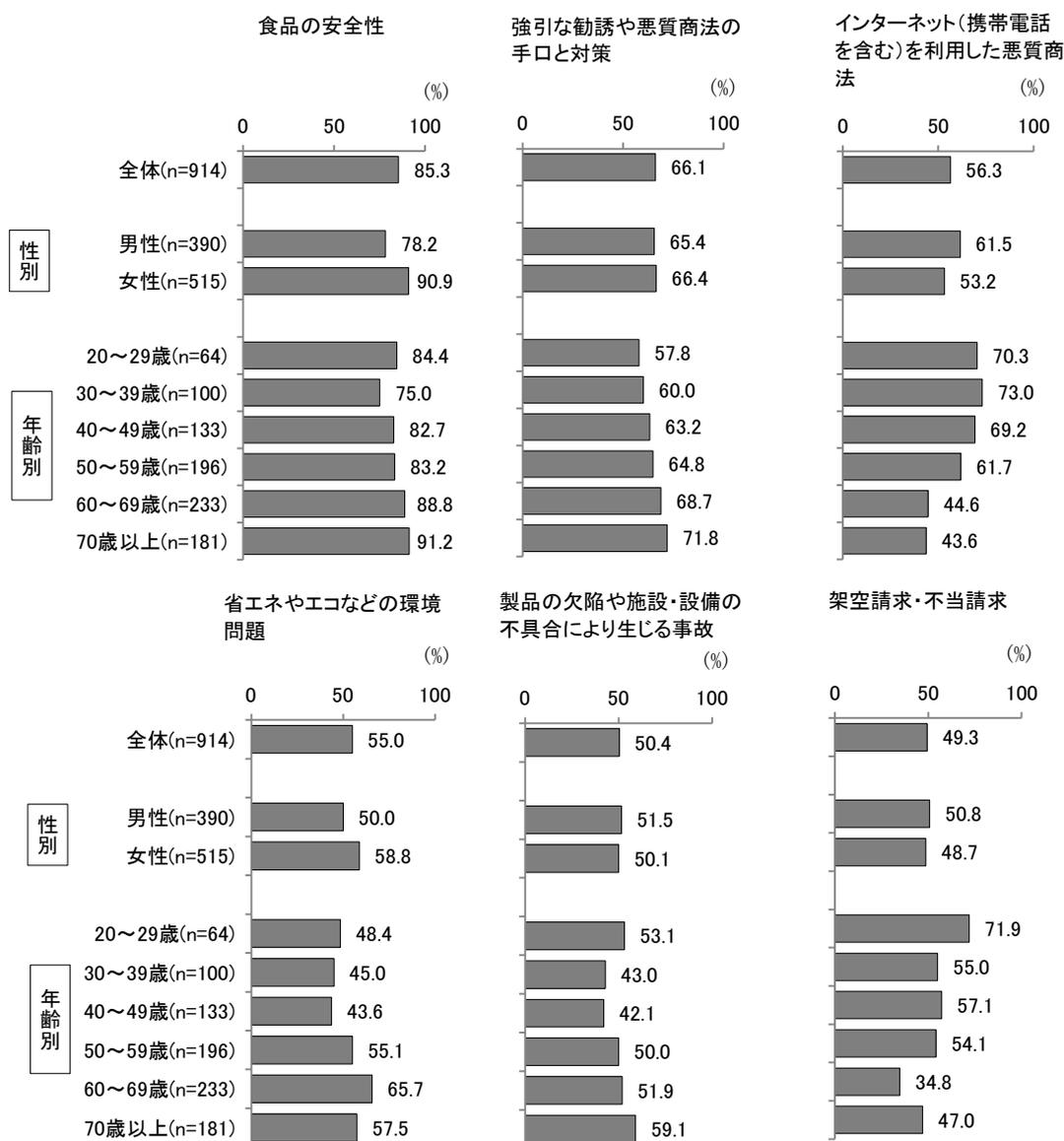
【性別】

「食品の安全性」は、女性（90.9%）が男性（78.2%）より、12.7ポイント高くなっている。一方、「インターネット（携帯電話を含む）を利用した悪質商法」は、男性（61.5%）が女性（53.2%）より8.3ポイント高い。（図1-6）

【年齢別】

「食品の安全性」、「強引な勧誘や悪質商法の手口と対策」、「省エネやエコ等の環境問題」、「製品の欠陥や施設・設備の不具合により生じる事故」は、おおむね年齢が上がるにつれ回答割合も高くなっている。「食品の安全性」は、70歳以上（91.2%）で9割を超えている。一方、「インターネット（携帯電話を含む）を利用した悪質商法」は、30～39歳で最も高く、おおむね低い年齢で割合が高くなっている。（図1-6）

図1-6 関心のある消費者問題（上位6項目） 性別・年齢別

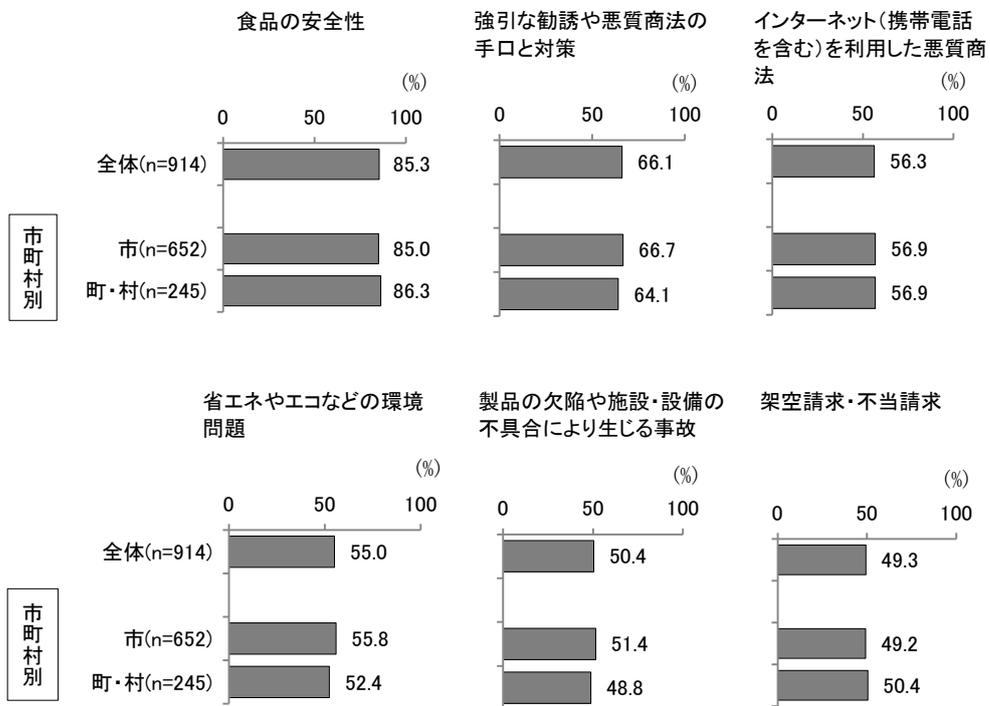


【市町村別】

いずれの項目についても市と町・村では大きな差はみられない。「強引な勧誘や悪質商法の手口と対策」、「省エネやエコ等の環境問題」、「製品の欠陥や施設・設備の不具合によって生じる事故」は市の方が町・村よりやや高くなっている。一方、「食品の安全性」、「架空請求・不当請求」については、町・村が市よりもやや高くなっている。「インターネット（携帯電話を含む）を利用した悪質商法」については同じ回答割合となっている。

(図1-7)

図1-7 関心のある消費者問題(上位6項目) 市町村別



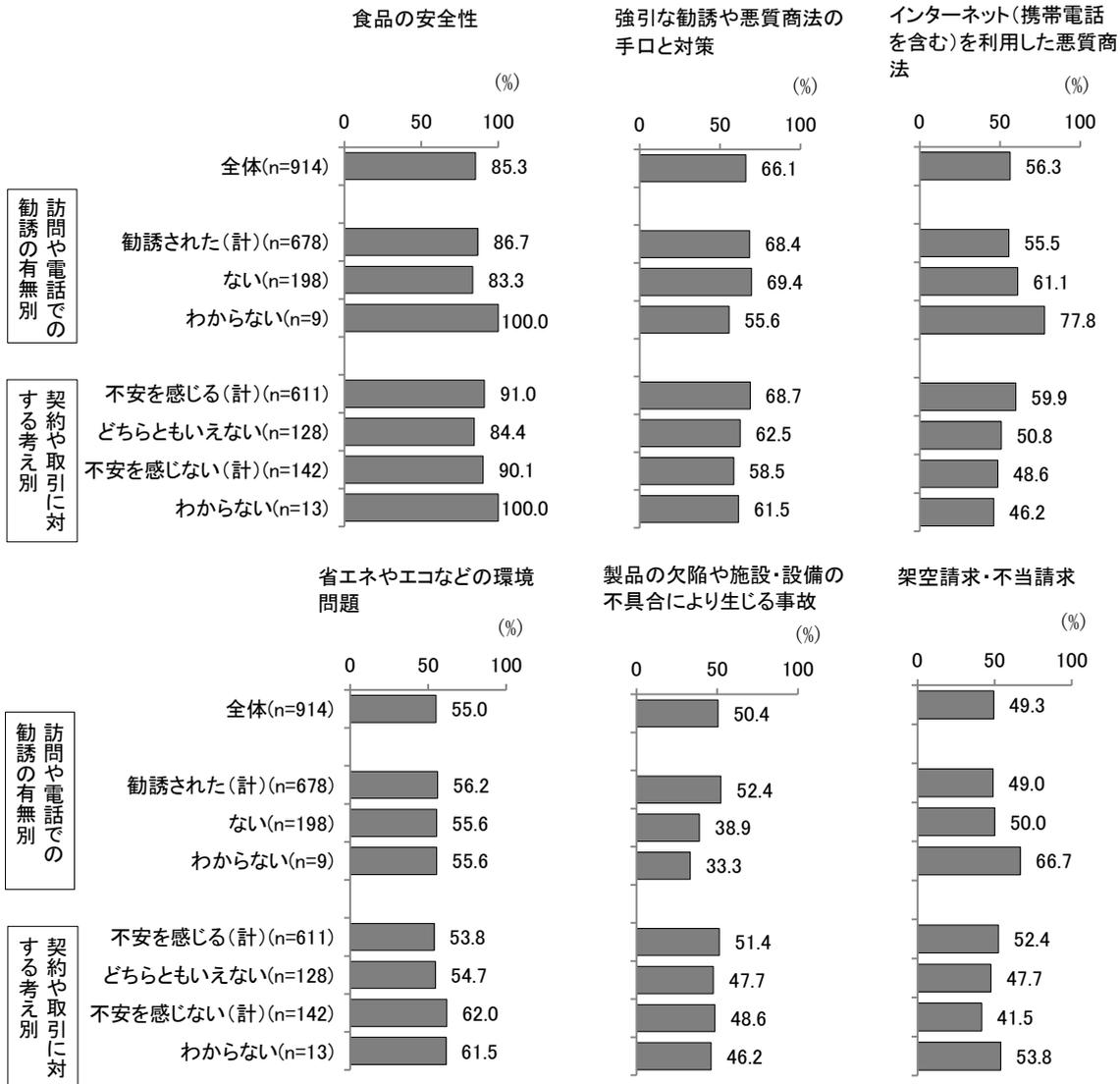
【訪問や電話での勧誘の有無別】

「製品の欠陥や施設・設備の不具合によって生じる事故」は、「勧誘された(計)」(52.4%)人の方が「ない」(38.9%)人よりも13.5ポイント高くなっている。一方で、「インターネット(携帯電話を含む)を利用した悪質商法」は「ない」(61.1%)と回答した人の方が「勧誘された(計)」(55.5%)人よりも5.6ポイント高くなっている。(図1-8)

【契約や取引に対する考え別】

6項目中、5項目で「不安を感じる(計)」人の方が、「不安を感じない(計)」人よりも関心が高くなっている。一方で、「省エネやエコなどの環境問題」においては、「不安を感じる(計)」(53.8%)人よりも「不安を感じない(計)」(62.0%)人の方が8.2ポイント高くなっている(図1-8)

図1-8 関心のある消費者問題(上位6項目) 訪問や電話での勧誘の有無別・契約や取引に対する考え別

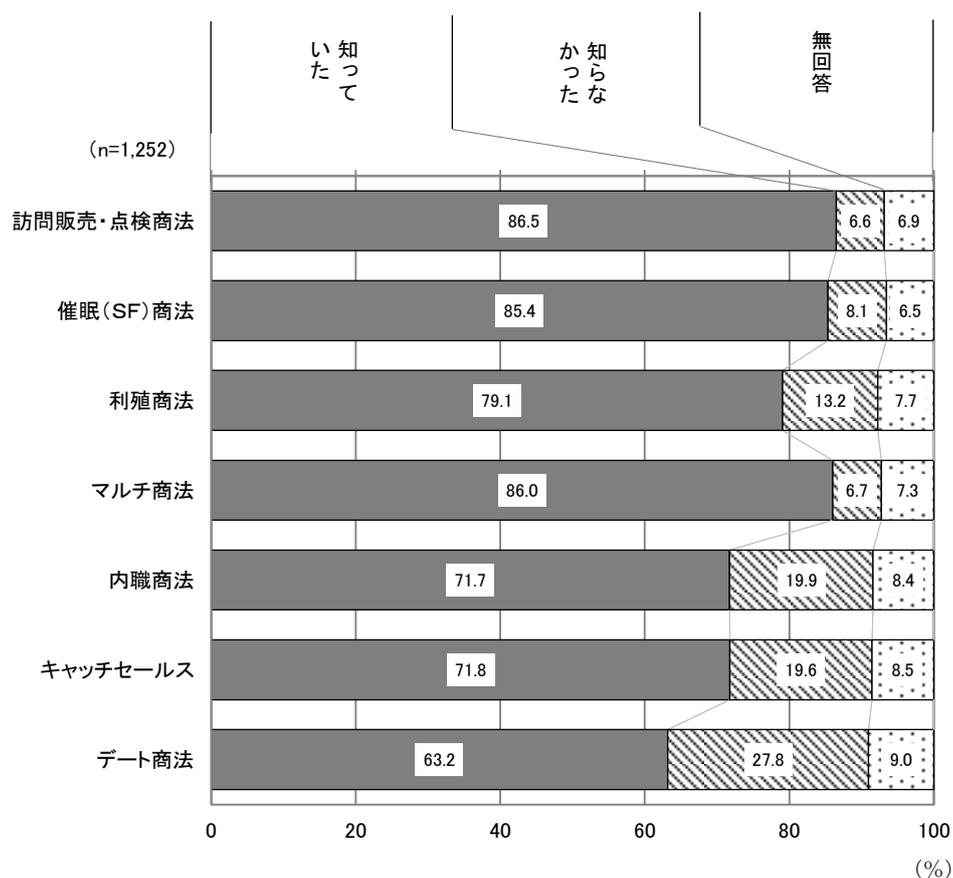


(3) 悪質商法の認知度

◆「知っていた」は“訪問販売・点検商法”で86.5%、「知らなかった」は“デート商法”で27.8%

問3 次の手口が悪質商法だと知っていますか。(〇はそれぞれに1つ)

図1-9 悪質商法の認知度



悪質商法について、上記項目の認知度を聞いた。

「知っていた」は“訪問販売・点検商法”(86.5%)で最も高く、約9割となっている。次に、「マルチ商法」(86.0%)、「催眠(SF)商法」(85.4%)の順となっている。一方、「知らなかった」という回答は、「デート商法」(27.8%)で最も高く、約3割となる。次いで、「内職商法」(19.9%)、「キャッチセールス」(19.6%)の順で、ともに約2割となっている。(図1-9)

訪問販売・点検商法

【性別】

男性と女性では、大きな差はみられないが、男性よりも女性の方がやや高くなっている。(図1-10)

【年齢別】

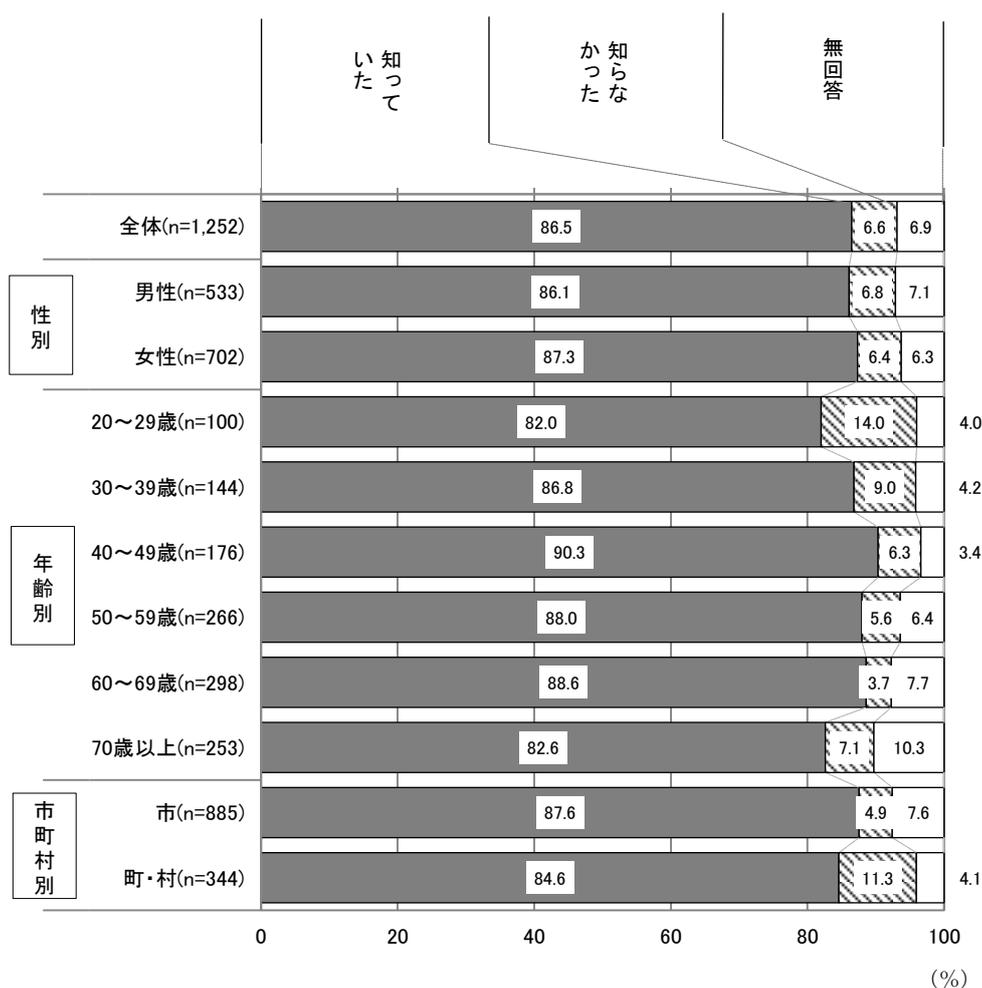
「知っていた」はどの年代でも8割以上となっている。40～49歳(90.3%)で最も高く9割を超えている。「知らなかった」は20～29歳(14.0%)で最も高くなっている。次いで、30～39歳(9.0%)、70歳以上(7.1%)の順に回答割合が高くなっている。

(図1-10)

【市町村別】

「知らなかった」という回答は、市(4.9%)、町・村(11.3%)で、町・村の方が6.4ポイント高くなっている。(図1-10)

図1-10 悪質商法の認知度<訪問販売・点検商法> 性別・年齢別・市町村別



催眠（SF）商法

【性別】

男性と女性では大きな差はみられない。（図1-11）

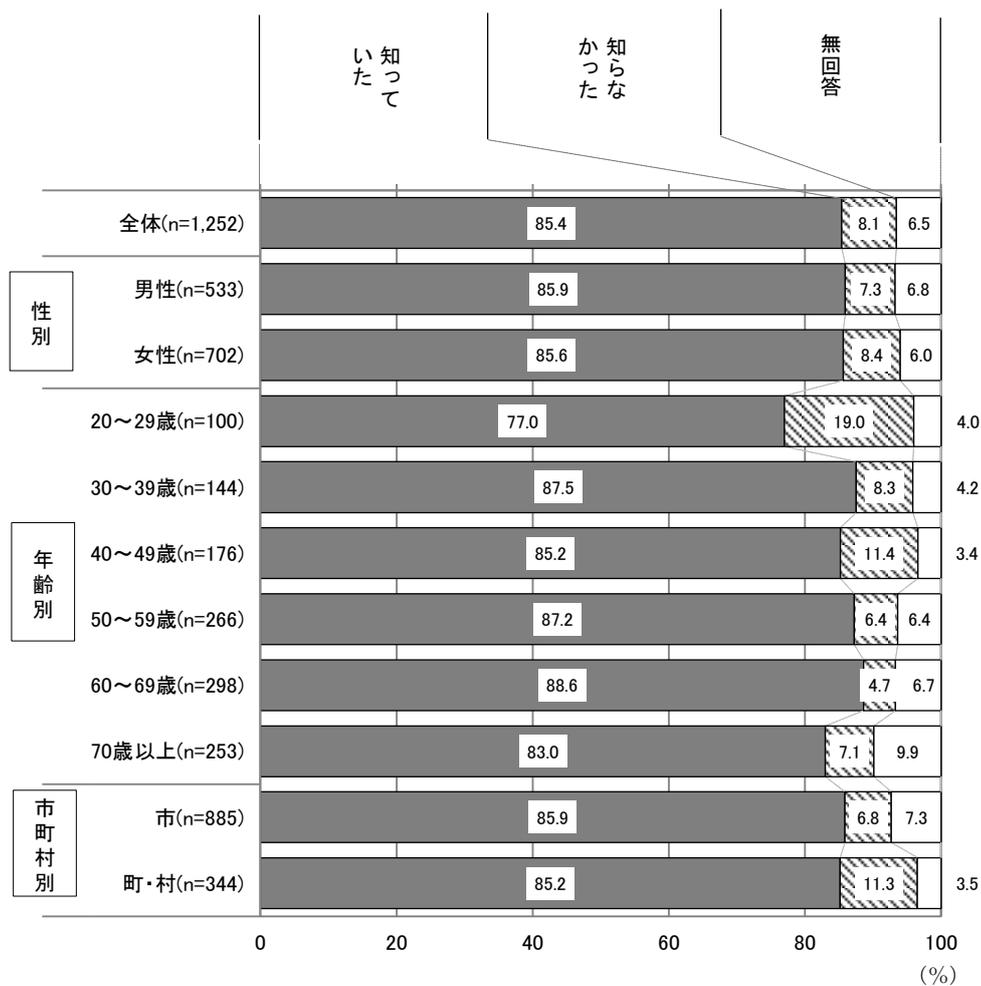
【年齢別】

「知っていた」という回答は、60～69歳（88.6%）で最も高くなっている。次いで、30～39歳（87.5%）、50～59歳（87.2%）の順となる。20～29歳（77.0%）では、「知っていた」という回答割合が唯一8割を下回っている。（図1-11）

【市町村別】

「知らなかった」という回答は、市（6.8%）よりも、町・村（11.3%）の方が4.5ポイント高くなっている。（図1-11）

図1-11 悪質商法の認知度＜催眠(SF商法)＞ 性別・年齢別・市町村別



利殖商法

【性別】

「知っていた」という回答は、男性（82.9%）が女性（76.9%）より 6.0 ポイント高くなっている。（図 1—12）

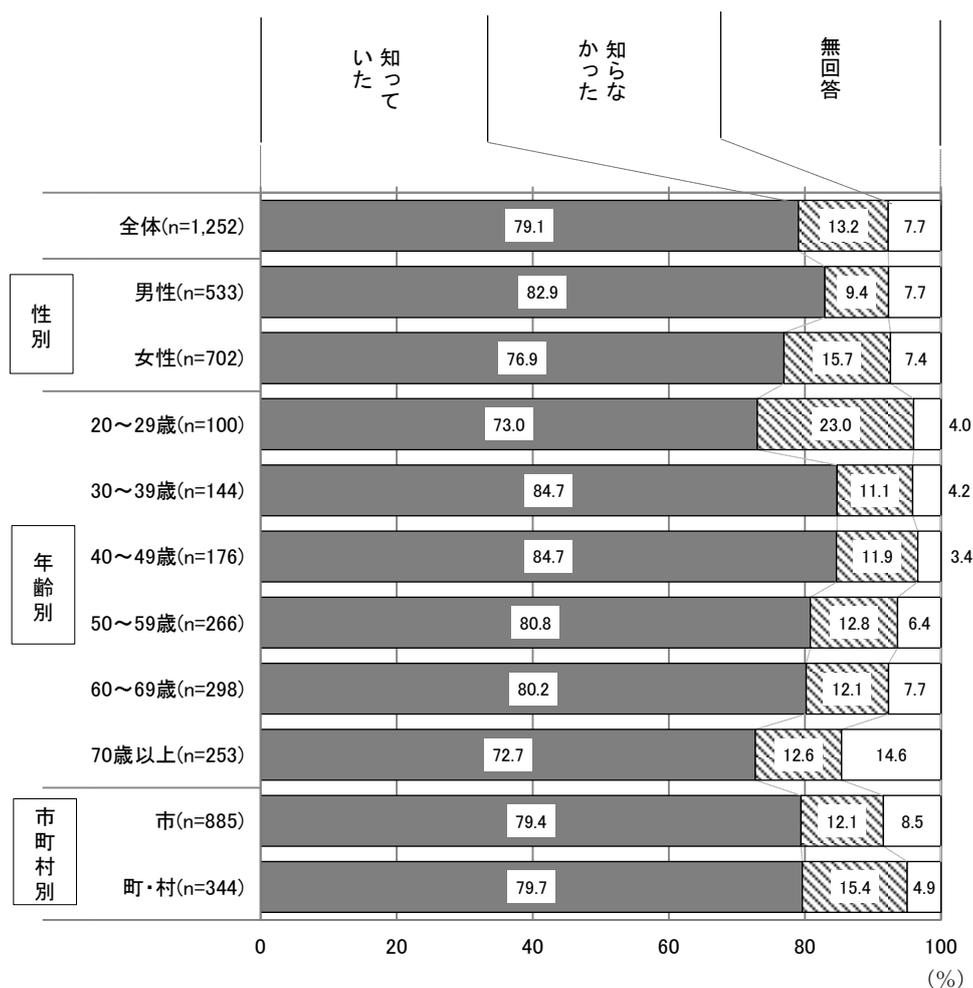
【年齢別】

「知っていた」という回答は、30～39 歳（84.7%）、40～49 歳（84.7%）の年代で最も高く、20～29 歳（73.0%）で最も回答割合が低い。50 歳以上になると年齢が上がるにつれ「知っていた」という回答は徐々に低くなっている。（図 1—12）

【市町村別】

「知らなかった」という回答は、市（12.1%）よりも、町・村（15.4%）の方が 3.3 ポイント高くなっている。（図 1—12）

図 1—12 悪質商法の認知度 <利殖商法> 性別・年齢別・市町村別



マルチ商法

【性別】

「知っていた」は、男性（87.4%）の方が女性（85.3%）より 2.1 ポイント高くなっている。（図 1-13）

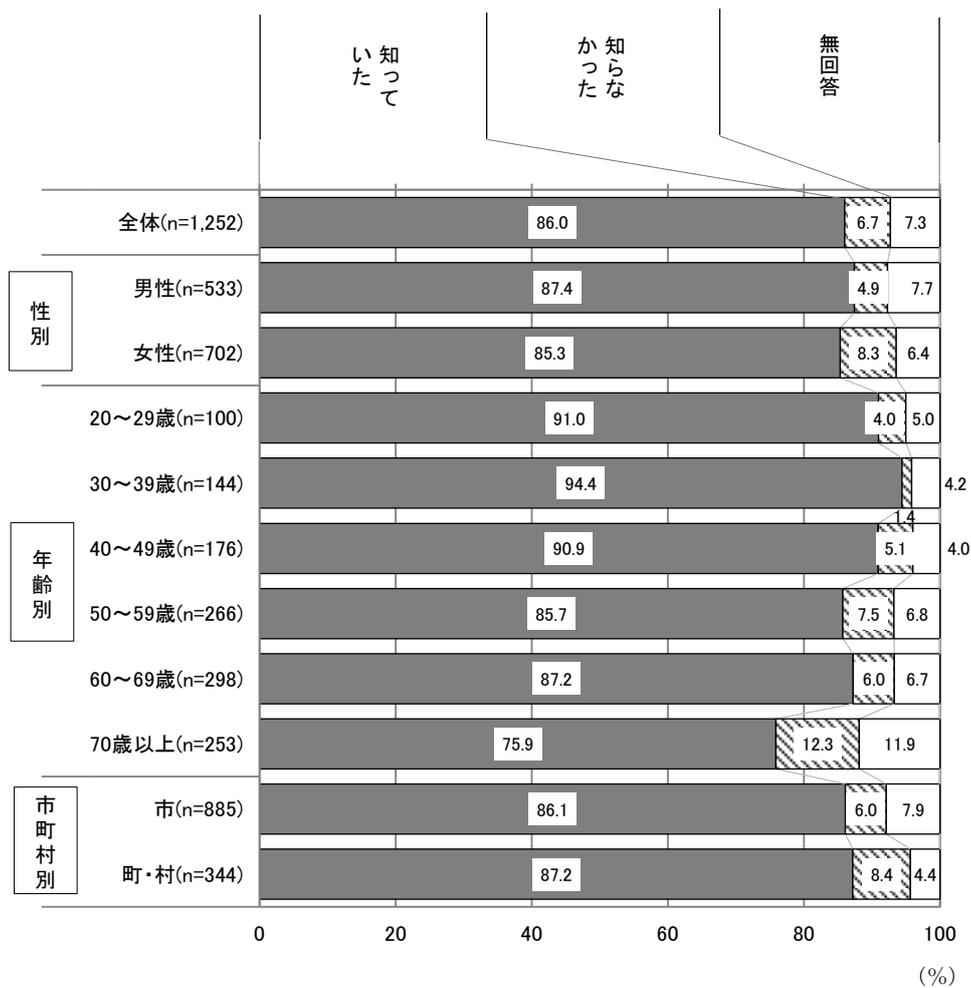
【年齢別】

「知っていた」という回答は 30～39 歳（94.4%）で最も高くなっている。49 歳以下ではいずれも 9 割を超えている。（図 1-13）

【市町村別】

「知らなかった」という回答は、市（6.0%）よりも、町・村（8.4%）が、2.4 ポイント高くなっている。（図 1-13）

図 1-13 悪質商法の認知度＜マルチ商法＞ 性別・年齢別・市町村別



内職商法

【性別】

「知っていた」という回答は、男性（73.0%）の方が女性（70.9%）より2.1ポイント高くなっている。（図1-14）

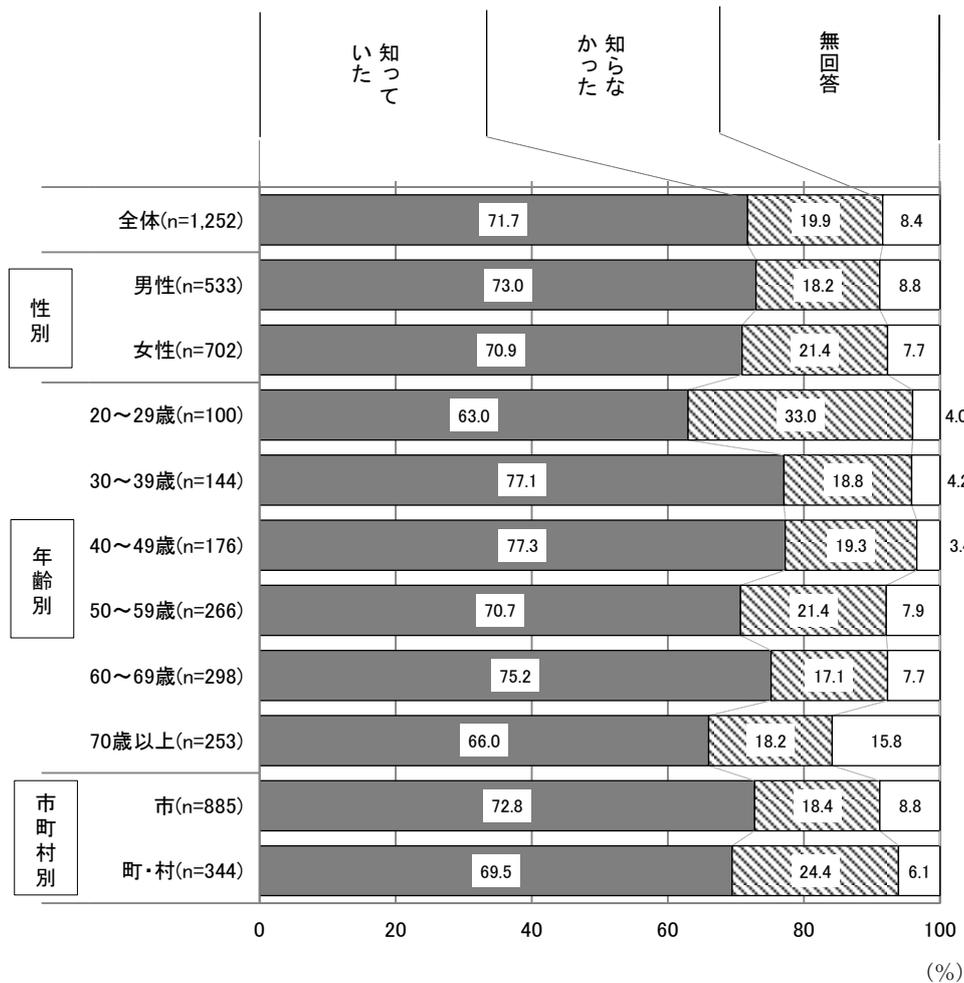
【年齢別】

「知っていた」という回答は、20～29歳（63.0%）と70歳以上（66.0%）が6割台、その他の年代では7割台となっている。（図1-14）

【市町村別】

「知らなかった」という回答は、市（18.4%）よりも、町・村（24.4%）が、6.0ポイント高くなっている。（図1-14）

図1-14 悪質商法の認知度＜内職商法＞ 性別・年齢別・市町村別



キャッチセールス

【性別】

「知っていた」という回答は、男性（75.2%）が女性（69.7%）より、5.5ポイント高くなっている。（図1-15）

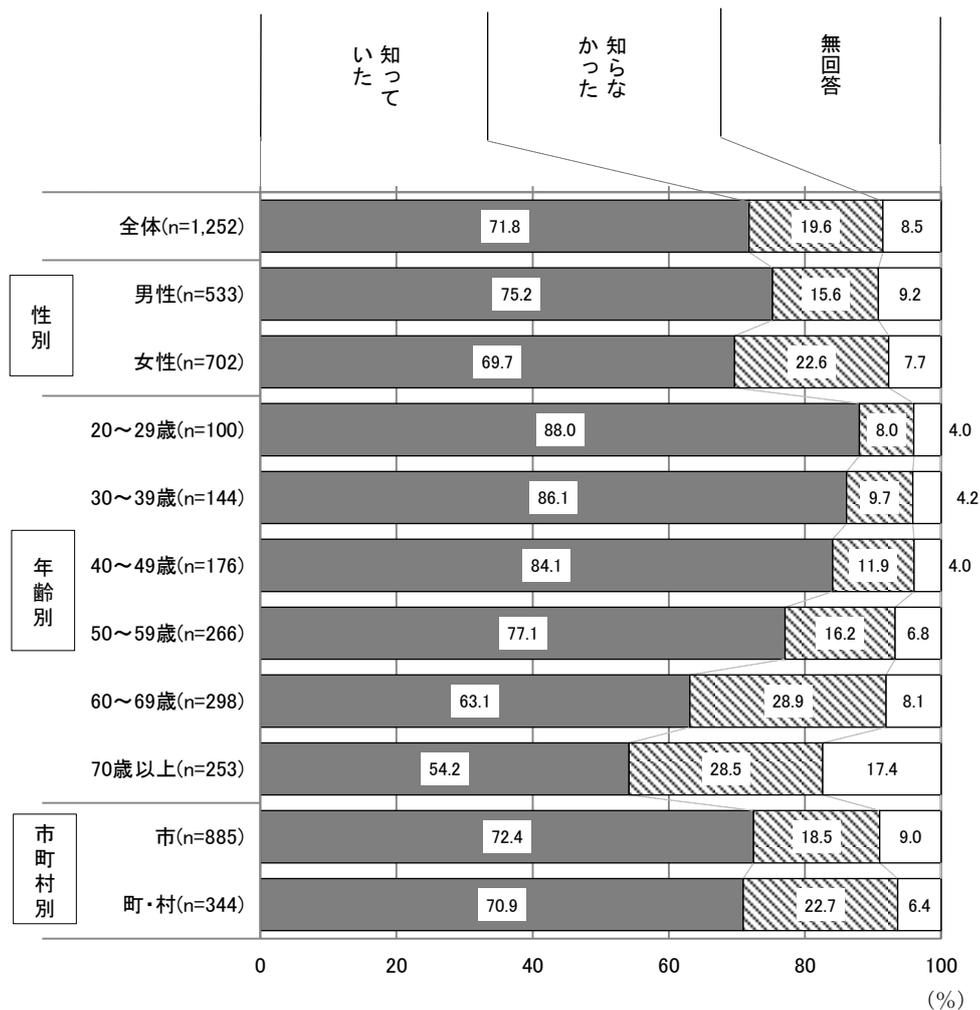
【年齢別】

「知っていた」という回答は、20～29歳（88.0%）で最も高くなっている。年齢が上がるにつれて回答割合は低下しており、最も低い70歳以上（54.2%）では約5割となっている。（図1-15）

【市町村別】

「知らなかった」という回答は、市（18.5%）よりも、町・村（22.7%）が4.2ポイント高くなっている。（図1-15）

図1-15 悪質商法の認知度＜キャッチセールス＞ 性別・年齢別・市町村別



デート商法

【性別】

男性と女性で大きな差はみられない。(図1-16)

【年齢別】

「知っていた」という回答は、30～39歳(84.0%)で最も高く8割を超えている。それ以上の年代では、年齢が上がるほど「知っていた」という回答は減少している。70歳以上(45.5%)では5割を下回っている。(図1-16)

【市町村別】

「知らなかった」という回答は、市(27.1%)よりも、町・村(29.7%)が2.6ポイント高くなっている。(図1-16)

図1-16 悪質商法の認知度<デート商法> 性別・年齢別・市町村別

